



滋賀県レイカディア大学同窓会 甲賀・湖南支部通信

NO2:平成26年10月31日発行

発行責任者:滋賀県レイカディア大学同窓会:甲賀湖南支部長・橋本 元夫:0748-88-3730

***** 2014,10,31 (No.2)		目	次	*****	
受賞者の言葉					
長寿人生(生き方)の秘訣	城 宏衛	信楽	17期	文芸	1
人生50年	堀 多喜男	土山	23期	園芸	1
ボランティア活動記					
私のボランティア活動	明智 榮一	甲西	31期	地文	2
水口細工の復興活動	橋本 黄市	水口	22期	スポ	3
私達のボランティア活動	竹内 重行	水口	33期	園芸	3
手づくりの桜並木とキャラクター通筆	片淵 満	甲賀	33期	園芸	4
随 紀					
喫茶・わび茶の譜	今井 進	信楽	17期	陶芸	5
行 文					
赤兎山登山と平泉散策	高山 雅史	石部	31期	地文	6
同好会活動					
花見ハイキング	高山 雅史	石部	31期	地文	8
支部からのお知らせ					9
編集後記					9



受賞者の言葉

□長寿人生(生き方)の秘訣

17期 文芸卒 城 宏衛



米壽を迎えましたが自覚は強くありません。レイ大同窓会を始めご縁のある方々から懇ろな祝福を戴きまして、深く感謝している次第であります。

この度甲賀湖南支部の文化広報部より標題の「長寿人生(生き方)の秘訣」について投稿の依頼を受け、戸惑っております。考えてみると失敗をして始めて健康について留意するようになりました。

それは約4年前のある日、私の田圃の溝掃除で泥土をスコップで掘り上げていた時、少し腰に痛みを感じました。そこで止めればよいのに目標もあり、切りをつけたかったので、痛みを堪えて作業を完成させました。その夜、痛みは増長してきたので翌朝直ぐに病院へ行きました。腰背中のレントゲン写真を何枚も撮り、医師の診断は、腰骨と背骨の圧迫骨折であると。原因は年齢による骨粗鬆症であるとのことでした。今まで「圧迫骨折」なる病名すら知らなかったのが驚いて医師の指示に従って養生しました。普通の骨折なれば復元できるが、この場合はこの状態で固めるしか方法はないとのことでした。

それからは、年齢と健康の関係が深く関わっていることを痛感いたしました。今までは年を気にすると老けが早いと思って、自分の年齢は余り気にかけず気を丈夫にもって、他人から元気だねと声をかけられると、尚強がりになって活動してきましたが、これからは年齢も気にかけて健康について学び実践することだと悟りました。

人間の身体は神様から戴いたもので、非常に精密に仕組みられており、全機能が密接に関係し合っていて生命を保っていることを知りました。例えば骨・筋肉・血管・血液・飲食栄養・各五臓(心臓・肝臓・肺臓・腎臓・脾臓)、六腑(大腸・小腸・胃・胆・膀胱・三焦)等、非常に密接に関わり合っていて生命を維持していることを知り、適度の運動と休養睡眠と感謝の心で一日一日を全うすることだと心掛けるようになった昨今であります。皆様本当に有難うございました。

人生50年

23期 園芸卒 堀 多喜男

人生50年と云われてきましたが、今や80年を超える大変な長寿の時代となってきました。

昭和2年東京に地下鉄が開通した年にこの世に生を受けまして以来88年大変な世の移り変わりを見てまいりました。中でも戦争が個人にも国家にも与えた影響は最大のものだと思われまます。

昭和16年12月8日に、水口中学校2年生の木造の教室の中で開戦の大本営発表を聞き大きな興奮と少しの不安と共に感動の1日でありました。健康な同級生は、陸海軍に志願して出陣され、残った者は勤労働員の



明け暮れで、琵琶湖畔で干拓作業中晴れ渡った青空の下、B29の100機の大編隊が殷々たる爆音と共に通過する様子は圧巻というか残念というか忘れる事の出来ない出来事でした。

移動先の西舞鶴で終戦となり、戦後日本の復興が始まりました。日本人の英知によってのみ世界に誇れる国家が再建され現在の豊かな生活が出来るようになりました。

2年間のレイカディア大学通学も楽しいひと時でありました。大学の益々の充実と同窓生各位のご健勝をお祈り申し上げます。

ボランティア活動記

私のボランティア活動

31期 地域文化卒 明智 榮一

レイ大OBの皆様には日頃大変ご無沙汰を致しております。今回、会報の原稿を担当させていただきましたので、投稿させていただきます。

私は、現在 非常勤の勤務をしながら、趣味の活動及びボランティア活動をしておりますので本日はボランティア活動につきましてご紹介いたします。

レイ大在学中に、授業の一環で地域体験研修がありましたが、同期の皆様と相談して、同じ研修をするなら湖南省内で研修をと意見がまとまり、菩提寺にあります社会福祉法人「近江ちろば会」の施設に、2009年に環境整備の一環として、施設内の樹木の剪定、除草作業を、湖南省在住の同期の馬場さん、平田さん、高山さん、武井さんと私の5人でさせていただきました。

そして、卒業後は地域貢献を実施する人材の育成がレイ大の主旨でありますので、卒業後も、同施設で年間3回定期的にボランティア活動をさせていただいております。現在は、31期生だけではなく湖南省在住の卒業生にも声をかけて活動しております。お陰で施設の方にも喜んでいただき、今年で6年目を迎えました。施設の入所者様とのふれあい、所員さんとのふれあいを通じて充実した活動であると感じております。

今後も、出来るだけ長く続けたいと思っておりますので、活動希望の方がございましたら是非一緒にやりましょう。ご連絡をお待ちしております。



水口細工の復興活動

22期スポレク学科卒 橋本 黄市

古来、水口細工は昭和天皇の即位大嘗祭や伊勢神宮式年遷宮に献納され、また正倉院の御物に収められています。江戸時代には、東海道を旅する人のお土産物にもなっていた葛細工の工芸品です。

その製法は昭和42年に最後の製作技法保持者が亡くなり水口細工はまったく途絶えてしまいました。

その材料は、山野に自生している葛(クズ)、青葛藤(アオツヅラフジ)、棕櫚(シュロ)、竹等を編み上げて作ります。

私は、平成12年7月に仲間と、この水口細工の復興活動を始めました。先人の作品こそ残っているものの、製法技法を知る人もなく、少ない文献、先人の作品、言い伝え等を参考に、まず材料は何であるのか、どの山野に自生しているのか、何時に採取するのか、またどのようにして加工して素材にするのか、どのように編みこんでいくのか暗中模索が約10年余りかかりました。



先人の作品



私の作品

ようやく今年15年目となり、素材の加工に男子10名、編上げに女子12名の陣容が整いました。私たちの作品は、先人の作品にはまだまだ及びませんが、製作技法をより研鑽して郷土の輝く伝承工芸品として復活できることを目指して努力したいと思います。

紙面の都合で十二分な説明が出来ませんが、興味をお持ちの方は、私までご連絡を頂きますれば、資料とご説明をさせていただきます。

私達のボランティア活動

33期園芸学科卒 竹内 重行

33期生から紀要がグループによる課題学習報告書に変わり、私は7名で「ささゆりから学ぶ里山の現状と今後」をテーマに、各地のささゆりに関する学習に取り組んだ。甲賀市の「みなくち子どもの森」での体験学習が契機となり、卒業後レイ大で学んだボランティアの精神を地域の担い手として役立たせたるために、24年に4名で「ささゆりサポート隊」を結成、現在12名で活動している。



私たちの主な活動場所は、「みなくち子どもの森」公園内の里山で学芸員と共にした草刈、垣根作り、種の採取と球根の育成に奉仕している。6月には「ささゆり鑑賞会」を開催、里山一面に咲く甘い香りのささゆりを満喫した時、「ボランティアをしてよかった」と思っている。甲賀市の花ささゆりの育成に現在の仲間と奉仕する一方でボランティア活動に賛同する多くの方とネットワークを築きたい。



手づくりの桜並木と キャラクター通り

33期園芸学科卒 片淵 満

私が70年間辛抱強く生活しているところが甲賀市甲賀町和田柞ヶ谷(ほそがたに)です。行き止りの細長い谷です。延長約800mで両側をゴルフ場に囲まれ民家が13戸点在します。

平成6年に下水道が敷設され道路も拡幅されました。それを記念して桜並木を作ろうと提案しましたが、「田が日陰になる」とか、「見通しが悪くなる」、「草刈に邪魔」、「枯れ葉が落ちる」とかで過半数の賛成を得るのには苦労しましたが、半ば強行して桜の苗木を120本植えました。草刈で切られるわ、草と一緒に焼かれるわ散々……。辛抱強く毎年10～20本捕植を繰り返し、やっと花が見られる頃になると反対派も認めざるを得なくなったか無抵抗に。

10年目頃に、拙宅の前にボンボリを約40灯吊りました。少しずつ見物客も増えてくと賛同者も現れて、8年前に200灯のボンボリが全線開通。毎年沢山のお客で賑わっております。

しかし、資金やゴミ問題、設置・撤収・維持管理等には今尚課題はあります。

桜街道には甲賀城郭群の内でも特に城郭が密集している和田城郭群があります。和田城跡には通年にわたり約1000名の見学者があります。

桜並木も花のシーズンは短い。花見以外の時期も楽しんでもらえる事は無いかと考えていた時に、孫の発案によりアニメキャラクターを桜並木に取り付けることにしました。鳥取県の境港の「水木しげるロード」は皆様ご存知の所ですが、私の甲斐性に合う手づくりで、最初に「アンパンマンシリーズ」を作成、物珍しさもあって見物者がブログで紹介したものですから、いろんな要望が増えて「天才バカボン」、「忍者ハットリ君」、「サザエさん」、「ドラえもん」、「ミッキーマウス」等種類が増えて現在では、21体のキャラクターがお迎えしております。著作権の問題？怒られたら止めたらよろしいか？

責任、金、手間は全て自分が持つ覚悟で一步踏み出さないと何も出来ません。





本図は実際ではありません。イメージです。

随 筆

喫茶・わび茶の譜

17期 陶芸卒 今井 進

日本における喫茶の始まりは、古く平安時代初期に遡ることが知られています。その後およそ1300年の時間をかけて喫茶風習は広まり、今日、日本では茶を飲む(喫茶)という行為は極めて日常的なものとなっています。しかし、そうした日常化・大衆化の一方で、日本では、茶の湯・茶道という独特の文化が形作られてきた事を忘れるわけには参りません。

日常的な喫茶も、高度な精神性を重んずる茶の湯・茶道も、いずれ長い時間をかけて育まれてきた日本文化の重要な一側面にほかなりません。余りにも日常的であることを示す際に「日常茶飯事」という言い回しを用いるように、茶を飲む＝喫茶という行為は極めて日常的、大衆的文化として日本人



の中に根を下ろしている。このため(茶)と言えば日本の伝統文化の感が強いが、元をたただせば喫茶も中国からの渡来文化であった。

「わび茶」の系譜 喫茶は元々中国から伝わった風習であったから、日本でも古くは中国製の喫茶具が珍重されていた。遅くとも14世紀には、国内でも瀬戸釜で天目茶碗などが焼かれているが、基本的に中国製品(唐物)の代用品・代替品にすぎなかった。しかし、15世紀後半から16世紀にかけて町衆の中から輩出する茶人達は、煌びやかな唐物だけを評価するのではなく閑寂・拓淡という境地を重視して、国産品(和物)の中にも積極的に美を見出すようになる。後世「わび茶」の祖と仰がれる村田珠光には第一の弟子とされる古市澄胤にあてて「茶の湯」の心得を説いた「心の文」と呼称される一紙がある。そこには「この道の一大事は和漢之さかひをまきらかす事」「ひせん物・しからき物などを用いて」というくだりが見え、15世紀末頃には単なる代替品としてではなく、和物の備前焼や信楽焼が「わび茶」の道具として意識的に使われ始めていたことが窺われる。もっとも、珠光自身がどのような和物の茶道具を使っていたかは、史料が乏しい事もあって、よく判らない。しかし、千利休(宗易)も師事したという武野紹鷗の場合には所持品と伝えられる国産の天目茶碗や信楽焼の水指などが知られており、「茶の湯」の道具への和物の進出は、一段と進んでいたようだ。こうした茶道具への和物の採用は「わび茶」大成者千利休によってさらに推し進められるが、中でも特記されるのが、陶工・長次郎の制作にかかると、楽茶碗の使用である。

このように珠光から紹鷗・利休へと受け継がれてゆく「わび茶」の伝統の中で、茶道具に対する価値観は、大いに変容していくが、「窯変」「湯滴」などが「代物カロキモノ」とされているなど一種価値観の逆転現象が起きている事を窺い知ることが出来る。

紀行文

赤兎山登山と平泉寺散策

31期地域文化学科卒 高山 雅史

所属の山のクラブの夏山例会が福井県勝山市にある赤兎山になりました。今年の夏は天候不順が続き、当日も曇りであったが、雨は降らなかった。

1000m付近まで登ったもののガスのため小原峠で引き換えし、麓の「東山いこいの森」のロッジ泊まりとなった。夕食の親睦パーティは山行不発とアルコールの勢いもあって大いに盛り上がった。

翌日白山神社平泉寺と恐竜博物館を回るようになった。

白山神社平泉寺は泰澄により養老元年(717)に開いたと伝えられています。通常越前地方の観光コースは朝倉遺跡、永平寺、恐竜博物館というのが一般的で、平泉寺はこのポイントから外れているためあまり知られていません。

石段を登り巨大な杉の老木が並ぶ参道(日本の道100選)と苔むした石畳道を行くと、静寂と、荘厳とが混ざりあったような心を落ち着かせるすがすがしい気分になりました。このような感じになったのは久しぶりのことでした。

石段と石畳の道を上り詰めると三之宮という古いお堂に着く。ここには加賀白山の市之瀬登山口に通じる白山禅定道(歴史の道100選)という入口標識があった。昔行者がこの道を、昨日我々が登った赤兎山の小原峠を通り白山へ登った事に思いをはせると白山信仰の行の厳しさが察せられます。



この平泉寺横の田畑は中世には48社36堂600坊と言われて、多くの僧兵を擁して栄えた坊跡ですが、天正年(1574年)加賀一向一揆の乱入により全山ことごとく焼失してしまい、その後秀吉による再興と明治4年(1871年)の神仏分離で白山神社となり今日に至っている。この発掘で当時の石垣、石畳が山に向かって残っているのを見るとここに住んでいた人々の生活や、白山神社の歴史の長さが偲ばれる。

朝倉遺跡も当時の生活が再現されているのですが、滅びた点(朝倉義景)は同じでも石垣石畳の道のみというのも感慨深いものがあります。歴史に興味のある方には一見の価値あるところです。

この後福井県立恐竜博物館(70歳以上無料)へ寄ったがクラブ仲間の平均年齢が72, 3歳という事もあり巨大なティラノサウルスの骨格標本や実物大の動くフィギュアで首が痛くなり、また集中して見たので1時間ほどで皆疲れてダウン。早々にレストランに直行、帰路についたのでした。



同好会活動

4月花見ハイキング

里山ハイキング同好会事務局
高山 雅史



平成26年4月7日、JR山科駅に集合、皆で揃って地下鉄「蹴上駅」に着く。

駅から少し下った処からインクラインの軌道に入る。もともと水面の低い京都疏水から登り軌道で船を東山のトンネルまで上げて、トンネルを抜けて琵琶湖まで運搬船を通した跡地です。

南に向かって登りの軌道の両側は桜が満開。人も登る人と下る人でいっぱい。

ウエディングドレスのモデルのカップルが写真撮影中の横を通り抜けて桜の花道を上

の疏水公園に向かう。公園に丁度大きな桜の木があったのでここで今回の参加者で記念撮影。

公園を通り抜け疏水の水路に沿った道を南禅寺へ向かう。

南禅寺の山門で六名が見学に上り京都市外の眺望を楽しみました。

この後南禅寺の桜を見て山門を出る。山門前の鹿ヶ谷道を通り野村美術館近辺のしだれ桜のピンク色に感激する。街歩きの後、黒谷の「金戒光明寺」に着きました。

金戒光明寺で昼食後総会を開き昨年度の実施計画承認、本年の希望など話し合った。

午後からは少し北の「真如堂」を通り抜けて白川通りを越え、京の花見の定番、「哲学の道」に入る。

丁度満開の桜のトンネルを銀閣寺道まで約2kmを心行くまで楽しみました。

そして最後の50mほどの白川通りに続く白沙村荘前桜は本日最高の花見で、疏水の水道を埋め尽くす花びらの白さに感激。

銀閣寺から東山三条までバスで戻り、京阪、JRと乗り継いで戻る。

最初から最後まで花を満喫出来た街歩きでした。



支部からのお知らせ

- 総務研修部
 - 趣味作品展
日時:10月2日～3日:会場:水口中央公民館
 - 新入会員歓迎会
日時:10月3日10時:会場:水口中央公民館
9人の入会がありまして、支部会員数は、136名となりました。
 - 研修旅行
日時:11月18日:行先:淡路島:会費:9,000円
- ※ 開催状況は、次号(NO. 3)に掲載します。
- 健康福祉部
 - 第2回グランドゴルフ大会:12月4日(木):AM 9時30分開始
会場 野洲川グランドゴルフ場(水口西友近くの河川敷)TEL 63-7044
参加費 400円、申込締切日:11月20日(木):各地区の理事まで
- 広報文化部
 - 「甲賀・湖南支部通信NO3」発行:原稿締切り;12月末:発行:平成27年1月31日
 - 「甲賀湖南支部たより」発行:原稿締切り;1月末:発行:平成27年3月1日
- ※ 多くの寄稿をお待ちしています。
 - **お詫びと訂正:**
 - ◆ 平成26年4月1日現在の会員名簿で、水口の24期・スポ・「井代 一枝」さんのお名前を誤って「井上 一代」と掲載してしまいました。お詫びして訂正いたします。
 - ◆ 平成26年度 支部理事会組織図で、副支部長;健康福祉部の奥本静子さん・31期・生活科学を誤って23期・園芸と掲載してしまいました。お詫びして訂正いたします。

編集後記

先ず、天候の事から書き始めなければならない程、今年の夏は、広島市の土砂災害など各地に被害をもたらした「平成26年8月豪雨」被災者の皆様方へお見舞い申し上げます。

今、秋真っ只中、高くなった空に、甲賀・湖南の田も黄金色に染まり収穫、紅葉なす飯道山へのハイキング、スポーツ・読書等、絶好の季節となりました。

さて今回は、向学心に燃え、難関レイカディア大学を目出度く卒業され、志一途にボランティア活動を継続しておられる方々の投稿に拍手です。

物思うこの秋の夜長に、明日への自分をじっくりと見詰め直すのも一考かと思います。



鈴川 晴一 記

【表紙の説明】「滋賀県レイカディア大学」の標識が建立されました。今年の大学祭で序幕式が行われ、お目見えしました。長寿社会福祉センター一の横にあります。